

第3回尾鷲市総合計画策定審議部会質疑応答一覧

●第1部会

	No	質疑・意見	回答・対応方針
子育て	1	指標の満足度が、中間値も目標値も「3.00」でいいのか。中間評価で目標達成できたらどうなるのか。	年に一度、まちづくりアンケートというものを実施しており、その項目の中に「満足度」に関する設問があり、現状値に記載している。5点が満点となっており、少しずつ向上させていくものであるが、まずは3.00を目標とするためこのような記載としている。
健康	1	関連計画に「尾鷲市新型インフルエンザ等行動計画」があるが、コロナ対策はないのか。	インフルエンザ等の中にコロナも含まれている。呼称については、国の法律に準じたものとしており問題はない。
	2	めざす姿に「地域力を活かした……」とあるが、この地域力が何を指すのかがイメージしづらいのではないのか。例えば「健康づくり団体や組織との連携による……」のような表現はいかがか。	この言葉が浸透してほしい気持ちもあって記載しているが、わかりにくい表現であるならば注釈を入れるか表現を修正するかなど、持ち帰り検討する。 現状は、市民との協働の欄及び用語解説に、「尾鷲健康増進の会」について記載しており、地域力の意味合いを表現している。
	3	市民との協働欄の市民等の役割の3つ目に「市民団体を中心に」などと追記してはどうか。また、文末の「していただく」はおかしいので、「します」に修正してはどうか。	そのように修正する。
	4	指標の満足度が、中間値も目標値も「3.00」でいいのか。中間評価で目標達成できたらどうなるのか。	年に一度、まちづくりアンケートというものを実施しており、その項目の中に「満足度」に関する設問があり、現状値に記載している。5点が満点となっており、少しずつ向上させていくものであるが、まずは3.00を目標とするためこのような記載としている。
医療	1	紀北医師会等との連携・協力等について記載する必要はないか。紀北医師会が不适当ならば、「他の医療機関」でもよいのではないか。	紀北医師会の名称について適当かどうか確認する。(紀北町内の医療機関も含まれるため) 個人病院も含めて記載することが適当かについて、検討のうえ対応する。
社会保障	1	特定健診事業をやってもらえるのは非常にありがたいこと。検査項目を増やすことはできないか。	すぐには難しいが、皆さんが便利に利用いただけるように、増やしていく方向で取り組んでいきたい。
全体	1	主語(尾鷲市・本市・市民など)の付いているものとそうでないものがある。統一感が必要ではないか。	基本的には主語の記載は必要ないと考えている。主語が無いと伝わらないものの中にはあるので、そこも踏まえて事務局にて対応する。
	2	関連計画が記載されていない分野もあるがそれでいいのか。重複してでも書いてあったほうが良いのではないか。	現時点では、重複させずに「その計画が一番関連のある施策分野」にのみ記載する形で表現を統一している。事務局にて持ち帰り検討する。
	3	指標の表現方法についてはどうなったのか。	次回の審議会にて、これまでの議論を踏まえた基本計画はもちろん、基本構想も含めた「総合計画案」をお示しする。そのタイミングで指標の表現についても検討・対応の上でお示しする。

●第2部会

	No	質疑・意見	回答・対応方針
基盤整備	1	北インター・南インターをフルインターにして、ハイウェイオアシス的な名目を入れていただくのはどうか。	インターについては、過去から議論されてきた中でこういう形になった。総合計画にフルインター化を書くのは難しい。国の施策としてやってきた事業なので、好ましくないと考える。
	2	南インターのパーキングエリアの件(災害・防災関連)はこれには書けないか。	国から計画が示されておらず、今の段階では総合計画には書けない。
	3	近い将来、南海トラフなどが叫ばれているが、南インターのところにライフラインとして防災倉庫などを設置するという話も聞いている。そのようなことも入れておいたらどうかと思うが。	国の政策、事業でやってきている。これは尾鷲市の総合計画であり、国の計画をどうこうするということは言えない。
	4	国がやるにしても地元の声を国に上げる必要があるのでは。	要望は総合計画とは動きの中でできるかと思うが、国が主体となって動いている事業をこういう計画に入れていくことは、国やいろんな機関との関係上、あまり好まれないということがある。 国の計画が表に出ていて、それに対して総合計画の中で尾鷲市も巻き込んでこうすると言えるのならいいが、まだ責任を持って国がこうしてくれると表現ができない中で、総合計画に活字として表せない。
	5	施設ができるとしたら始神テラスのような形になるのだろうか。	そういうふうに国が作ると設計を見せてくれるのなら、それにプラスして尾鷲市が投資してどうするというのが書けると思うが、それが示されていない段階では責任を持って表現できない。駐車場やトイレなど、簡易パーキング的なものを整備するというのは聞いているが、見えていない。 タイミングの問題。もし総合計画を来年作っていて、それまでに国が南インターをどのようにするか分かっているならば、何かお示しできたかとは思いますが、5年後の後期の時に、国から示されていけば、書けるという話になると思う。
	6	用語解説に径間とあるが、本文中に出てこない。	指標の説明のところに出てくるので、残している。指標の表現の仕方でもなくなることもある。
公共交通	1	ふれあいバスについて、老人会では停留所を増やしてほしいなど結構要望がある。計画的に、この中に、相談する、打ち合わせするというようなことを入れておいてもらいたい。	行政の役割の中に、「地域等との連携のもと、持続可能な公共交通体系を構築します」という表現を入れさせていただいている。地域公共交通計画の改定年なので、その中で地域に回って利用者の声を聞かせていただくという計画は予定に入っている。その策定の中で対応させていただきたいと思う。住民1000人のアンケート調査の中に公共交通のアンケートも併せて取っている。利用者アンケートも取る。要望も把握もしている。 その中で公共交通、ふれあいバスの重要性、何をしたいかというの理解しているつもりだが、年々コストが上がってきている。スクールバスを利活用したらどうかとか、三重交通やクリスタルとも、どうすれば今後利用しやすいものができるかという打ち合わせも重ねている。 もし利用者の声をというのをいれるのであれば、現状と課題の3つ目の●の中で、「民間事業者、既存の交通事業者、尾鷲市社会福祉協議会などとの意見交換を随時行っていくことが必要です」という部分に、利用者の方はもとよりというような表現を入れさせていただく。
	2	総合病院の土地は購入したので、利用できるようになるのか	今、国交省に手配していただいている。パーティーハウス前は安全性の問題、ベンチを設置できないという課題もあった。高速バス等も移る。既存事業者からも要望があった話。

防災	3	自助・共助・公助の用語解説は入れるのか。	(各委員からも分かるとの意見があり)表記からは削除させていただく。
全体	1	SEAモデルのことをここに上げていってはどうか。	委員からも10年の必要な視点の中にSEAモデルを入れてはどうかという意見もあったし、基本計画の一つの項目としたらどうかという意見もあった。関係課が多岐に渡ることなので、今庁内で調整しており、修正させていただく。
	2	2-1、都市拠点の整備のところ、内容は公図の整備に限定されているので、都市拠点の整備と合わない気がしており、SEAモデルのことも入れ込むようにしてはどうか。(ランドブレイン)	SEAモデルは中電の所有地で、市が貸していただく、利用させていただくという話で進んでいる。いろんな施設を作るというのは、それぞれの企業活動の一つとして、中電との相対の契約で進む話になるので、基盤整備とまではいかないかなと思う。他の分野には入ってくると思う。
	3	2-3自然環境にSEAモデルは入ってくるか。	SEAモデルもSDGsやカーボンニュートラルを謳ったらどうかという企業の提案もあるが、2-3に入れるのは考えていない。入れるとすれば2-6の防災の中に、確定ではないが、自衛隊との話の中でヘリポートの用地、訓練での活用、港まちづくりビジョンでの船舶の利活用というようなところだが、入れるかどうかはわからない。
	4	回を追うごとに見やすく、分かりやすくなってきている。かなりいいものになってきており、皆さんの努力に感服するばかり。	—
	5	用語解説を抜粋して巻末に載せるのはどうか。	指標の一覧表の話とも一緒なので。指標と用語が、基本計画のどこに使われているかというのを載せる方がいいかなと今のお話で思ったので、検討させていただく。
	6	この基本計画はどこに出すものか。	我々がこれに基づいて仕事をしていくので、市民に見ていただくというのが大きい。
	7	基本計画は全市民に配布するのか。	HP上では公開するが、相当予算が要るので全市民には配布しない。ある部会からは寄付を集めたらどうかという意見もあった。ジャストアイデアだが協賛広告を載せようかとも考えている。良い方法がないか思案している。
	8	(印刷費用の到達に)クラウドファンディングはどうか。	業者に手数料をかなり取られてしまう。
	9	第6次の計画はどこに配っているか。	議員、市の執行部、審議会の方、関係機関、冊子を残すために図書館など。
	10	立派なものを作って配ったとしても、ああそうですかで終わってしまうのが全市民の半分以上ではないだろうか。それであれば図書館に10~20冊まとめて置いておいて、希望の方はこちらで読んでくださいと、将来の尾鷲のために市職員と関係者が議論して未来の尾鷲像を描いたと、数年後にはまた再検討の機会があるので、この際の一読だけでもされて意見を頂ければ幸いですというようなことを、広報や新聞に載せれば、少なくとも見る気のある人は見ると思う。	いかに見ていただけるか、検討させていただく。
	11	協賛広告について、SDGsや脱炭素に前向きな企業も多い。そういうふうには臭わせて協賛を頼めば、将来のことを考えている企業であれば、抵抗にはならないのでは。	良い方法を思案させていただく。
	12	広告は、金額は一律で同じ大きさが良いと思う。	良い方法を思案させていただく。

●第3部会

	No	質疑・意見	回答・対応方針
林業	1	山林のCO2吸収量はどの程度か。	<p>スギ・ヒノキの場合は71本で1年間1トン吸収すると言われており、樹種によって大きな差はないとのこと。木の材積量による。人間一人が年間に排出するCO2が大体2トンくらいと言われている。</p> <p>ある一定の大きさ以上の企業は、CO2削減・吸収量を公表しなければならない。その数字は何万トン単位となると思われる。公表の結果、あまりに不真面目な企業については、健全な成長の見込みがないということで投資家の投資が止まったり、それに基づいて銀行の融資が受けにくくなるようなことを各企業は心配している。削減できない部分はどうしても出てくるので、森林や藻場再生などの吸収活動に企業がお金を出して貢献し、買い取るということが出てくる。山にしても海にしてもそういう受け皿をいち早く作って、企業とマッチングをしていくということが今、必要になってきている。今年ヤフー株式会社からそういうお金もいただいたので、そういう森づくりを進めている。</p>
	2	東京海上日動もこういうことに興味を持っている。うまくいけば尾鷲市全体の山が企業に注目される。	東京海上日動が経団連の副会長であり、経団連が森林の取り組みにすごく興味を持っていて、林野庁に情報収集をしているとのこと。尾鷲市として林野庁にアプローチしていると考えている。
	3	木は例えば50年のものより70年のもののほうが、CO2をよく吸収するのか。	最初の10年間は緩やかで、10年後くらいから徐々に成長曲線が上がって、50年60年で緩やかになるのではないかとされているが、ずっと上がっていくという説もある。80年90年100年の木を切ってモニタリングをしていないのであくまでも推測ということになる。大事なのは切った木を木質化すること。切り倒して放置して腐るとせっかく吸収したCO2が再放出されてしまう。そのためにはしっかりと林業活動が必要。
観光・プロモーション	1	三木里地区には、海、山、川があり人を呼び込める魅力がある。	<p>総合計画の性質上、個々の事業については記載していない。それぞれの地区にある魅力のブラッシュアップは必要だと考えている。尾鷲に1回来てもらったら、次は三木里などといった商品として作り上げ、リピーターに繋げていく。そういったところを紹介できる形をとっていきたい。</p> <p>三木里については、三木里地区観光協会との連携も密に取っている。海水浴や野鳥の小径は、観光協会や地区が積極的に関わっている。地区としても積極的な地区であるので、我々としても、積極的にPRしていく。</p>
	2	アプローチの仕方の拡大について、SNSの活用。例えば、天狗倉山の体験メニューは、先に映像としてイメージを伝える。映像の作り方や映像の伝え方、新たに広がりそうなSNSの活用など、市全体としてどのように考えているのか。	<p>PR方法として、実はSNSは効果があまりない。ふるさとチョイスなどポータルサイト内で動画を流す方が効果的であることが実感として分かった。</p> <p>また、11月に感謝祭というものもあり、中継で感謝の気持ちを伝え、関係人口を作っていきたいと考えている。</p> <p>尾鷲の花火大会に寄付者の席を設けたり、大物ユーザーなどとの取り組みもしていきたいと考えている。</p> <p>天狗倉山の動画など、観光のプロモーションにも関わることであるので、商工観光課としても連携していきたい。</p>
	3	鹿児島県のふるさと納税でサンシャイン池崎さんを使って話題になっている。インフルエンサーを使って、アプローチしてもいいかと思う。	参考にさせていただく。

関係人口	1	関係人口の用語説明で、観光客以上移者未満という言葉は、要するに尾鷲にルーツのある方という意味か。	例えば自分の兄弟が名古屋にいるということでもいいし、ふるさと納税で尾鷲市に寄付をしてくれている方も関係人口となる。思いを持って尾鷲市のために何かやりたいという方が、尾鷲市にとっての関係人口となる。
	2	ふるさと納税の返礼品には、尾鷲独自の変わったものがあるのか。	物ばかりではなく、天狗倉山へ行く体験メニューもある。地元紙を送るとか他にはないものに取り組んでいる。天狗倉山はアテンドして、地元ならではの食事を食べていただく半日程度のツアー。
	3	協力隊の池山さんとの連携。商店街で何かできるのではないかと思う。	池山さんのファンの方が尾鷲に来たこともある。(世古委員)
	4	ふるさと納税は税金控除にもなる。	ポータルサイト内でもどの程度の向上になるか試算もできる。

●第4部会

	No	質疑・意見	回答・対応方針
国際交流・多文化共生	1	指標にある「イベント開催数」や「イベント参加者数」の現状値については、コロナ禍の影響を受けてのものと思われる。どこかに補足説明を入れなくて良いか。	持ち帰り検討する。 他の指標にも影響があると思われるので、対応する場合は全体的な統一を行う可能性がある。

●第5部会

	No	質疑・意見	回答・対応方針
指標	1	前回の指標については、どうなったか。	各部会で相当意見が割れた。トータル的には80%以上のものとなっているのだから、事務局で考えればという意見もあった。次回に案を入れた形で示したい。
行政運営	1	計画的な行政運営で、前回費用対効果という文言がどうかという話があり、私はむしろ適当だと思いますよと申し上げたが、今回削除しているのは何故か。	費用対効果をきちんと検証することは大事であると思うが、市で行う全ての事業で数値化をしていくことは困難なところもあるので、考え方として前提で起きつつも表現として記載するのは難しい。 現在、毎年各課に指示をして市の全事業において見直しをかけているが、本当の意味での費用対効果、例えば人件費を含めた費用を出して効果も出すという事はしきれていない。総合計画の中で記載するという事はそれだけの責任が生じるので、市の各分野すべての事業においてそれが出来るのかというと、出来ない事業もある。
	2	市民意見の反映に対する満足度について、中間値の満足度が50%に達しないときに、主要施策・事業の中に市民意見の反映に関することが入っていないと、何で達成しなかったのかという事が不明となり、達成も厳しいと思う。例えば市長への手紙の実現をどうするかとか。具体的にそういうものが無いと。また、向上させるのであれば、市民に対して直接的な機会を増やしますというような記載が必要とを感じる。	市民懇談会や市長の手紙など、情報発信的な事は、広聴の中に記載されていて、実際建設的な意見もある。それをこの満足度の数値にどう結び付けていくかが重要と考えている。アンケートの中にも、市民意見の反映の次の設問で、市民説明会や重要事項について直接の対話の機会をもっと増やしてほしいというのが一番多い、という事は足りていないと。情報発信の機会をさらに増やしていかないとならないと考えている。

財政運営	1	実質公債費比率というのは0.5 下げるとも相当難しい事なのか。	公債費を下げることは直接数値を下げることに繋がる。一方分母の市税とか交付税とか上がることも数値の減少につながるが、交付税など不透明な部分も多く、何とも言えない部分もあるが、数値としては、借入れの部分を減らすような努力をして数値を下げていきたいという部分でこれぐらいの数値を設定させていただいた。
	2	収入の確保で、国の施策でどうなるかわからないふるさと納税なんかはいつ終わるか、他に収入見込めるものは無いのか。	短期ではない。根本的な解決はやはり人口を増やし市税を増やす事。それ以外で収入を増やしていくことは現状ではなかなか難しい。
	3	収入の確保という面ではもうひとつ、産業振興があって、必ずしもSEAモデルとして記載する必要はないと思うが、火力発電所跡地は何らかの形で触れておく必要がある。	仰る通りで、以前重要な視点の中にSEAモデルをという意見もあった。市の一つの事業であるとしたなかでも、庁内でもSEAモデルはやはり入れるべきじゃないかという意見もある。次の審議会までにそこについては全体的に落とし込んで調整する。
	4	事業に病院の繰り出しについて記載があるが、主要施策にはそんなことは載っていないが。	一般会計からすると単なる支出の一部であるが、病院の経営ということは市全体でみると重要な課題であるので事業として記載している。記載の方法を再検討する。
	5	単独で病院の経営ができるようにする検討などは行っているのか。	1-3の主要施策に病院の経営健全化の話は載っており、検討は行っている。
	6	「協働のために」欄の内容はこれだけでは不足ではないか。市民が納税に興味を持つようにすることも重要と思う。	持ち帰り、記載を検討する。
公共施設	1	「協働のために」の市民の役割として、利用方法の提案からさらに一步踏み込み、地域の人々が管理するといったことも考えられるのではないか。また、地域の実情を踏まえた、施設の「廃止」の提案の文言があってもよいのではないか。	持ち帰り、記載を検討する。
広域連携	1	東紀州地域は同様の課題を抱えているとのことであるが、それらについて、地域間で話し合う機会はあるのか。また、現場レベルでは話す機会はあるのか。	そのような機会はある、現場レベルではさらに詳細に意見交換する場がある。
	2	同様に病院の経営も厳しい状況にあるが、これも文言に入れた方がよいのではないか。	救急医療の点で紀北町と連携しているところもあるが、総合病院を紀北町と連携して経営するといった話はない。
	3	関連計画が一つもないのは妙である。	総合戦略と国土強靱化は同じ冊子の中であるのどと思って消してみたが、記載を検討する。
共働・平等	1	協働、平等で協働というところが弱く、目指す姿には官民という視点での協働が抜けているのではないか。	持ち帰り、追記を検討する。
	2	協働の視点として、地域ボランティアへの参加率といったものが目標指標にあってもよいのではないか。	持ち帰り検討する。